

名前：

現代ではインターネットが普及し、世界中のあらゆる情報に容易にアクセスできるようになった。今まで紙がニュースや様々な情報を手に入れるためには、新聞や雑誌というメディアを用いていたが、これらの役割は今やインターネットがほとんど全て果たしているようにも見える。では、これらのメディアは、今後インターネットがさらに普及した世界では、存在意義を失う、としまりのだろうか。

インターネットというメディアの画期的な点は、これが物質の消費をしない点である。新聞や雑誌の場合、情報は紙とインクによって物質化され、受け手はそれを手に取り、持ち運び、ページを繰るといった作業をする。しかし、インターネットにより与えられる情報は、電気信号の集まりにすぎない。受け手は物質の代わりに、画面上の表示の変化としてそれを受け取っている。

このような特性により、インターネットは空間と資源の制約から解放され、大量の情報を

を全世界に発信することを実現にさせた。しかし、この特性こそが、インターネットというメディアの限界をも含んでいる。

例えば、パソコンの画面に映ったノートを見ても内容が理解できないが、自分で紙に書き写して初めて分かるようになる。という類の話をよく聞く。自分の手を動かすという運動が、頭の動きとも関係しているのだから。

人間が物質世界に生きていく以上、物質を理解するという営みには、何らかの物質的なものとの相互作用が必要なのではないだろうか。

インターネットはこれから発達し、今ある新聞や雑誌などのメディアの役割はすべて代替することは原理的には可能であろう。それでも、上に挙げたような理由で、新聞や雑誌が必要とされる状況はあり続けるだろう。最終的には、伝える情報の質に応じて、インターネットと新聞や雑誌とが使い分けられるような世界になるように思う。